山形県連小会報

第　176　号
発行日　令和８年10月13日
発行者　山形県連合小学校長会
太　田　千　春
山形市木の実町12－37
県教育会館(大手門パルズ)

県連小　第２回理事会開催報告

変革の時代に応える学校経営と校長相互の学び合い

太田千春会長あいさつ

１　自然災害からの早期復旧・復興を祈念



去る７月28日に発生した熊本県での地震、ならびに８月13日から14日未明にかけて千葉県を襲った記録的な豪雨等、この夏も大きな自然災害によって尊い人命が失われ、甚大な被害がもたらされました。お亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興が進み、子どもたちが安心して通常の教育活動に戻ることができるよう願っております。

２　夏季における成果と関係各位への感謝

さて、６月12日に開催いたしました「第80回県連合小学校長会研究協議会」におきましては、西置賜地区小学校長会の皆様の多大なるご尽力により、大変貴重な学びを得ることができました。また、７月２日・３日に仙台市で開催された「第66回東北連合小学校長会研究協議会宮城大会」には、本県より111名もの校長先生方にご出席いただき、学校が直面する諸課題について熟議を深め、互いの知見を共有することができました。研究成果をご発表いただきました上山地区校長会および田川地区校長会の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

３　各専門委員会における喫緊の課題への取組

各専門委員会におかれましても、喫緊の課題を見極めた精力的な取組が進められております。生徒指導委員会では、生徒指導上の諸問題に関するアンケート調査に加え、昨年度発出した「提言」に基づく不登校の未然防止や組織的対応に係る具体的事例を集約し、それらを分析・考察していただきました。対策委員会におかれましては、８月３日に山形県教育局各課長様との経営懇談会を実施していただきました。各地区の対策委員の先生方が小中合同で綿密な準備を重ねてくださったおかげで、本県の教育課題の解決に向けた方向性を共に模索する極めて有意義な時間となりました。さらに、研修委員会におかれましては、令和11年度に控える「東北連合小学校長会研究協議会山形大会」に向け、大会副主題および大会趣旨文の検討に着手いただいております。本大会につきましては、本日の理事会にて開催要綱（案）等をご提案申し上げ、ご承認をいただいた上で正式に実行委員会を発足させたいと考えております。活発なご協議をよろしくお願いいたします。

４　教育をめぐる情勢の変化と本県教育の現状

国や県の動向に目を向けますと、次期学習指導要領改訂に向けた検討が大詰めを迎えており、2026年冬頃には中央教育審議会による最終答申が公表され、2027年３月には幼稚園・小学校・中学校の次期学習指導要領が告示される予定となっております。また、昨年の給特法改正に伴い、各学校においては「山形県公立学校における働き方改革プラン（第Ⅲ期プラン）」および各市町村教育委員会が策定した「業務量管理・健康確保措置実施計画」に沿った取組を着実に推進していく必要があります。

そうした中、８月３日に公表された令和８年度全国学力・学習状況調査におきまして、本県の小中学生の平均正答率が調査開始以来初めて全教科で全国平均を下回るという厳しい結果となりました。各学校におかれましては、子どもたちの学力や学習状況の実態を的確に把握・分析し、指導方法の改善に向けた具体的な方策について議論を深められていることと存じます。

５　結集と創意ある学校経営への決意

現在、学校を取り巻く環境はかつてないほどの大きな転換期を迎えております。極めて重く困難な課題が山積する現場にあっても、私たち校長は、多様性を包摂しながら深い学びを実現し、一人一人の子どもに確かな学力を育成することのできる学校を創り上げていかなければなりません。だからこそ、県連小の取組を通して校長同士が共に学び合い、「時代の潮流を捉える先見性」と「不易流行を見極める見識」を愚直に磨いてまいりたいと考えております。

結びに、皆様とともに創意ある学校経営を力強く推進してまいりますことを祈念いたしまして、挨拶といたします。

報　　告

1　全連小・東北連小関係から

(1)　全連小会長連絡協議会（７／９）

- 教育課程・教員免許制度の在り方や全国学力調査のCBT化など、国の教育施策の動向について報告があった。
- 北海道大会への参加や令和９年度全連小福島大会の発表担当地区について確認した。
- 給特法改正や教職員定数改善等について、国への要望活動を継続している。
- 「業務量管理・健康確保措置実施計画」の策定・取組に係る各地区の状況について情報交換を行った。

(2)　東北連小理事会（７／２）

- 令和10年度からの新分科会構成についての協議の経過報告があった。
- 東北連小会報は、今後もデジタルで発行していくことが確認された。
- 令和10年度大阪大会の研究発表割当や研究期間の短縮に伴う対応について報告があった。

(3)東北連小教育課程委員会（６／９）

- 宮城大会のペーパーレス開催の成果と課題を共有し、福島大会の運営に生かす方向性を確認した。
- 福島大会・岩手大会の副主題について情報共有を行い、山形大会の副主題検討に向けた参考とした。
- 山形大会からの新分科会構成について、宮城県案をもとに各県で意見を集約することを確認した。

2　県連小各専門委員会から

(1)　対策委員会

- 県教育局との経営懇談会を開催し、人的配置の充実や特別支援教育の充実等について要望した。
- 現場の課題を県及び国へ継続して伝えていくことを確認した。

(2)　生徒指導委員会

- 発達支持的生徒指導の視点から、不登校やSNSトラブル、保護者対応等について協議した。
- 学校と家庭が当事者意識をもって課題解決に取り組むことの重要性を確認した。

(3)　研修委員会

- 第80回県連小研究協議会（西置賜主管）の振り返りと、第81回県連小研究協議会（最上地区主管）の進捗状況を確認した。
- 令和11年度東北大会の副主題、趣旨文、新分科会構成案について検討するとともに、各地区における意見を集約し、本県の案を東北県連小教育課程委員会へ提出することが確認された。
- 研究紀要の編集・発刊準備を進めていることが報告された。

協　　議

1　第80回県連小研究協議会（西置賜主管）の成果と課題

- 前年度資料の活用や事前準備により、円滑な大会

地区校長会訪問

山形地区校長会

「支え合い 学び合い 高め合う」世代交代の中でつくる持続可能な学校経営

山形市小学校長会は、市立小学校長に山形大学附属小学校長等を加えた38名で構成され、資質向上に向けた研修と情報交換を進めております。

今年度は、「持続可能で、将来性のある教育の仕組みづくりへの挑戦」を重点に掲げ、新たに情報教育部を設置し、学校経営部、教育課程部、生徒指導部、健康教育部、行財政部、特別支援教育部と合わせた７つの専門部が中心協議を担当し、教育課題の解決に向けた研修の充実を図っております。新設した情報教育部で、「生成ＡＩの活用と校務改善」をテーマとした研修に取り組んでいるように、各専門部による話題提供や実践交流は、多様な学校課題への対応力を高めるとともに、学校経営の視野を広げる貴重な学びの機会と捉えています。また、定例会ではランダムなグループ設定による情報共有の時間確保を大切にし、いじめや不登校、危機管理、保護者対応など、日々起きる事案について知恵を出し合いながら対応力の向上に努めております。

本年度は38名中13名が新規採用校長となり、世代交代が大きく進みました。そのような状況下だからこそ、互いの経験や実践を共有し、支え合いながら学校経営にあたる校長会の役割は一層重要になっております。今後も会員の英知を結集し、「感動・感謝・信頼にあふれた学校づくり」の実現に向けて取り組んでまいります。

山形市立第一小学校　**石　澤　友　章**

運営を行うことができた。
- 分科会や講演内容に対する参加者の評価は高く、校長同士が学び合う有意義な機会となった。
- 一方で、全体会の実施方法や分科会での情報交換時間の確保については改善の余地があることが示された。
- 会員数の減少も見据え、持続可能な大会運営の在り方について今後も検討していくことを確認した。

2　令和９年度「第81回県連小研究協議会」（最上地区主管）について
- 令和９年６月11日（金)、ヒルズサンピアを会場として開催する方向で準備を進めることを確認した。
- 運営体制の縮小を踏まえ、参集型による半日開催を基本とした持続可能な大会運営について協議した。
- 全体会については、校長としての使命や役割、研究協議会の意義を共有する場として必要との意見が多く出された。
- 研究協議会の意義を共有する機会を確保するとともに、開始時刻や会の進め方について、最上地区で継続して検討することとした。
- オンライン開催についても協議したが、県全体を結ぶ運営には課題が多く、参集型を基本としながら地区の実情に応じた活用を検討することを確認した。
- 昨年度承認された「参集型・半日開催を原則とし、地区の実情に応じてオンラインによる一日開催も可」とする方針を再確認した。

3　令和11年東北連小研究協議会山形大会について
- 令和11年７月５日（木)･６日（金）の開催に向け、準備状況について確認した。
- 全体会場はやまぎん県民ホール、分科会会場はホテルメトロポリタン山形及び山形国際ホテルを予定している。
- 実行委員会を発足し、運営体制を整備することを承認した。
- 主幹地区を山形市・上山市・東村山地区、協力地区を西村山地区とし、継続的な準備体制を構築していくことを確認した。
- ６年に一度の山形大会に向け、継続的な準備、運営体制の構築を図ることとした。

4　弔慰規程の見直しについて
- 元副会長の弔意対応について、訃報把握の現状を踏まえ、「出身地区に一任する」とする改正案を承認した。

5　その他
- 特になし



東置賜地区校長会

東置賜は一枚岩

東置賜地区小学校長会は、南陽市５校、高畠町６校、川西町５校の16校の校長で構成しており、東置賜は一枚岩の理念の下、「活力に満ちた学校経営」「中学校長会並びに各教育機関との連携強化」「研修活動の強化」「教育諸条件の整備」の４つの活動方針を掲げ、創意あふれる学校経営の充実を期して活動しております。

今年度は、年間３回の総会を実施し、変化の激しい時代に対応した教育の在り方についての認識を深めるとともに、諸課題の解決のため、管理職としての資質を向上させるべく相互研修に努めております。

本会には、特別委員会として、調査部と研究部を設置しております。調査部は、文教事業委員会として、本地区校長会で発行している「文教のあゆみ」の編集を行っております。また、研究部は、研修委員会、学力向上委員会、生徒指導委員会に分かれ、各領域の情報収集や課題提示を行っております。特に、研修委員会では、「学校経営研修会」を毎年８月に実施しており、今年度は、各自がレポートを持ち寄り、各学校の課題等について研修を実施いたしました。

今後は、学校数の減少も考慮し、持続可能な組織づくりを進め、効率的であり戦略的な運用を図り、一人一人が可能性に挑戦する学校経営の推進に寄与できるよう事業を進めてまいります。

南陽市立沖郷小学校　**濱　田　芳　郎**

理事研修会議より

〈テーマ〉生徒指導

「不登校対応に係る取組」について

○趣旨説明：森山　謙一　幹事

- 不登校児童数は依然として増加傾向にある。
- SC・SSW 等との連携による組織的対応は進んでいるが、関係機関とつながらない家庭への対応が課題となっている。
- 「組織的対応の成果と課題」「つながりをもたない家庭への対応」について情報交換を行った。

○話題提供：米沢地区校長会　田中真由美　理事
（米沢西部小学校）

- 米沢市では「スクールガイダンスプロジェクト」により、未然防止を重視した学校づくりを推進している。
- アセスメントによる実態把握や協同学習、SEL 等を全小中学校で実施している。
- 校内支援チーム、SC・SSW、教育支援センター等が連携し、多面的な支援を行っている。
- 不登校支援では、「学校復帰」か「学習保障」かを家庭と共有して取り組むことが大切である。

【各地区理事から】（抜粋）

［山　形］

- 教育相談により教室復帰に繋がった事例や、特別支援学級への在籍変更による改善事例が報告され、個に応じた支援の重要性が共有された。

［上　山］

- SC・SSWC や市教育支援センターとの連携による支援体制の充実が図られている。

［西村山］

- 授業改善や自己決定カードの活用を進めるとともに、支援目標を明確にすることの重要性が共有された。

［北村山］

- 教育支援センターや校内支援センターを活用した支援を進めているが、人的支援の不足や保護者理解が課題である。

［最　上］

- フリースクールや地域ボランティアとの連携により、多様な居場所づくりを進めている。

［西置賜］

- 校内支援センターを活用し、児童の背景を踏まえた個別支援を進めている。

［田　川］

- 学習指導員や適応指導教室との連携が、登校継続や学習支援につながっている。

［飽　海］

- 相談体制の充実や「フラットルーム」の活用により、安心できる居場所づくりを進めている。

○まとめ

- 各地区とも人的支援や居場所づくり、関係機関との連携を進めている。
- 人的支援の不足や保護者理解、事案の複雑化が共通の課題として挙げられた。
- 安心できる居場所づくり、家庭との協働、学びの保障を柱に、不登校支援の充実を図ることを確認した。

